

## 編集室

## 南天の星空観望&amp;撮影ツアー

世界各地でテロが起るようになってしまい、おいそれとは海外旅行に行けない世の中になってしまいました。特にヨーロッパは危ない雰囲気です。そんなことを思いながら、夏休みを3ヵ月後に控えた5月初め、天文の雑誌で「オーストラリア・南天の星空観望&撮影ツアー7日間」という広告が目にとまり、オーストラリアならテロはなさそうだと考え、早速予約しました。

長年の天文ファンとは名ばかりで星の写真をほとんど撮ったことのない私は、どんなカメラやレンズを持って行こうかと考えました。滅多に使わないものの今も後生大事に持っているキャノンのデジタル一眼レフ、初代のEOS5Dは新型の発売予告がなされていて、購入して直ぐに新型が出るのは面白くないと考え、また大きくて重い5Dには閉口していたので、コンパクトなAPCサイズのEOS M3を購入しました。

出発日の7月29日、成田の第3ターミナルに集合すると、何人かが「お久しぶり」と挨拶しています。12人の参加者中8人が昨年も同じツアーに参加したりピーターでした。中高年男性11人中の紅一点は何と80才! 20時40分出発予定のケアンズ直行便は出発が何度も遅れ結局欠航に。旅行社が用意した成田のホテルではゆっくりする間もなく翌朝6時にたたき起こされました。香港経由、約12時間の乗り継ぎの間に簡単な香港観光をし、ゴールドコーストを経由し、結局31時間遅れでケアンズ着までのすべてを手配してくれた旅行社の力には感心しました。とても個人旅行では

不可能でしょう。

ケアンズをマイクロバスで出発、途中最後の町マリーバのスーパーに立ち寄り食料やビールを各自買い込むようにとのこと。三夜徹夜で星の写真撮るから昼間は寝て、目が覚めた時に適当に自分で食べなさい、夕食のみ準備しますというツアーでした。

17時前に目的地チラゴのロッジに着き、早速各自大きな三脚や赤道儀を抱えて観測地を下見して夜に備えました。ところどころに木の生えた草地ですが蟻塚もあり、地面は結構でこぼこしています。写真の邪魔にならないように赤いフィルムでカバーした暗いペンライトのみを頼りに新月の闇夜を歩くのは大変。夜中に夜食などのためにロッジに戻ったのち、自分の機材を置いた場所に再度たどり着くのに難儀しました。

最初の夜はまず5Dで天の川を狙いましたが、M3に変えてみると圧倒的な性能差、10年の技術の進歩には驚かされ、以後5Dの出番はありません。レンズも同様で古いのは星像が乱れます。何しろ相手は星ですから、レンズやカメラの性能テストをしているようなものです。2日目は天候に恵まれませんでした。3日目最後の夜は再び快晴に恵まれ、天の川や南十字星、大小マゼラン雲などをカメラに納めました。薄明前の東天の明るさは黄道光だと教えてもらいました。対日照はちょうど天の川中心と重なり分かりづらくなっているとこのことで残念でしたが、南の星空を満喫した旅行でした。

(加世田 俊一)

## 広島県医師会速報 2016年(平成28年)10月25日

- 発行所／一般社団法人 広島県医師会 〒732-0057 広島市東区二葉の里三丁目2番3号 TEL 082-568-1511 FAX 082-568-2112  
広島県医師会HP <http://www.hiroshima.med.or.jp/> E-mail: [kouhou@hiroshima.med.or.jp](mailto:kouhou@hiroshima.med.or.jp)
- 編集者／広島県医師会会長 平松 恵一  
(広報委員)山中 祐介、小園 亮次、高路 修、隅田 昌之、谷 充理、津田 敏孝、中尾 三和子、  
平尾 健、正岡 良之、吉田 良順、桑原 正雄、小笠原 英敬、水野 正晴、志田原 泰夫
- 印刷所／レタープレス株式会社 〒739-1752 広島市安佐北区上深川町809番地の5 TEL 082-844-7500 FAX 082-844-7800